

令和元年 10 月 25 日

桜門体育学会令和元年度大会（第 10 回大会）のご案内

桜門体育学会事務局

ご挨拶

錦秋の候、会員の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、本学会大会が開催される 2020 年は、56 年ぶりに東京でオリンピック・パラリンピック競技大会が開催される、体育関係者にとっては重要な年であります。そのような中で、芸術学部が主幹となり学会大会を開催できることを光栄に存じます。東京オリンピック開催年であるため、オリンピックに関連した企画を行うことが望ましいのかもしれませんが、主幹校が芸術学部ということもあり、学部の特色を生かした内容をお届けしたいと思いません。

初めに、本学会が平成 28 年度から平成 30 年度にかけて日本学術振興科学研究費〈基盤研究 (C) スポーツ科学〉に採択され取り組んできたプロジェクト研究である「大学生の社会的スキルに及ぼすスポーツ活動の効果—メタ分析及び大規模調査—」について、研究代表者である磯貝浩久先生（九州産業大学）より、その成果をご発表いただきます。

特別講演では、川上央先生（日本大学芸術学部）より「感覚・感情・感動」というテーマでご講演いただきます。川上先生は、スポーツ業界ではおなじみの雑誌であるコーチングクリニックで、すでに 100 回を超える連載記事を書いておられます。芸術学部音楽学科の教授でありながらも、多くのスポーツに精通していらっしゃいます。スポーツやその指導においても重要な「感覚・感情・感動」についてご講演いただき、我々がそれをスポーツやその指導にどのように生かせるかというきっかけになればと思います。

続いて、北村勝朗先生（日本大学理工学部）をコーディネーターとしてお迎えし、特別講演より引き続いて川上先生、飯田竜太先生（日本大学芸術学部）、松山立先生（日本大学芸術学部）とともに、「感性をどう教えるか」と題したシンポジウムを開催いたします。芸術分野においては、表現技術もさることながら感性が重要視されます。しかしながら、感性はどのように指導することができるのでしょうか。本シンポジウムでは音楽、美術、演劇を専門とする先生方から、学生に対する感性の指導方法をお話しいたします。スポーツとは異なる分野ではありますが、普段はなかなか聞くことのできない、芸術分野におけるそれぞれの指導方法を知るといふ貴重な機会となります。

一般研究発表においては、ポスター発表、口頭発表を行う予定です。発表者と参加者が関連な議論を行い、多くの情報を共有できる有意義な時間となることを願っております。

最後になりましたが、本大会が学部、学生および教員の枠を超えて、日本大学のスポーツとその周辺分野における教育・研究のさらなる発展に寄与することを願います。

第 10 回大会委員長 小沢 徹（日本大学芸術学部）

1. 大会概要

- 会 期： 令和2年1月25日（土）
令和元年12月9日（月）が一般発表抄録の受付期限です。
- 会 場： 日本大学文理学部百周年記念館（世田谷区桜上水 3-25-40）
<https://www.chs.nihon-u.ac.jp/access/>
京王線・東急世田谷線「下高井戸駅」下車 徒歩8分
京王線「桜上水駅（急行停車駅）」下車 徒歩約8～10分
小田急線「経堂駅」下車 徒歩約20～25分
- 大会行事： プロジェクト研究発表，特別講演，シンポジウム，
一般発表（口頭・ポスター），総会，理事会，懇親会
- 大会実行委員会： 日本大学芸術学部 芸術教養課程 小沢研究室
住所：〒176-8525 東京都練馬区旭丘 2-42-1
Tel : 03-5995-8402

2. 参加申し込み

- 参加申し込みは「Web 登録」もしくは当日申し込みとなります。Web 登録の場合は、**12月9日（月）までに**本学会のホームページ【<http://www.nu-taiiku.jp/society/>】上の「大会参加申し込み」フォーム，もしくは「3. 一般発表（口頭・ポスター発表）申込要領」に示される URL より手続きを行ってください。
- 口頭・ポスター発表を希望される方は，以下の「3. 一般発表（口頭・ポスター発表）申込要領」をご参照のうえ，発表申し込みを必ず行ってください。
- 大会プログラムと発表抄録集は，会員へ発送致します。
- 大会参加費は学会員，非会員共に3,000円です。大会参加費は大会当日に受付でお支払いください。共同研究者であっても，大会に参加されない方は不要です。

3. 一般発表（口頭・ポスター発表）申込要領

- 口頭・ポスター発表申し込みは「Web 登録」のみとなります。**12月9日（月）までに**，本学会のホームページ【<http://www.nu-taiiku.jp/society/>】上の「大会参加申し込み」フォームより手続きを行ってください。
- 発表申し込みの際には，希望発表区分を選択してください。
 1. ポスター発表（正会員・準会員）
 2. 口頭発表（正会員のみ）※ 大会運営の都合上，口頭発表の受け入れ数に制限がありますので，当該発表を申し込まれた方につきましては，学会事務局より発表形式の変更をお願いすることもありますので，ご了承ください。発表の受付結果については，申し込み締め切り後できるだけ早い時期に，Eメールでご連絡いたします。
- 口頭発表の申し込みについては正会員のみとします。準会員（大学生）は，ポスター発表となります。
- 以下の要領に従って発表抄録を作成してください。
 1. 演題・氏名等：

- ① 演題, 氏名, 所属について, それぞれ所定の欄にご入力ください.
- ② 準会員 (大学生) は共同研究者として, 指導教員名を必ず記載してください.
2. キーワード: 2~5 語程度, 記入してください.
3. 本文文字数: 本文は 500 文字以内とします.

【大会参加・発表申し込みのフォーム】

第 10 回桜門体育学会大会参加・発表申し込み:

<https://forms.gle/TWLkBi7e5Hw8LTSS9>



4. 大会行事

■ プロジェクト研究発表 (10:00~11:00)

「大学生の社会的スキルに及ぼすスポーツ活動の効果—メタ分析及び大規模調査—」

発表者: 磯貝 浩久 先生 (九州産業大学)

概要:

本プロジェクト研究は, 大学生の社会的スキルに及ぼすスポーツ活動の効果を明らかにすることを目的としました. 10 名の研究者を中心に 3 年の間に, メタ分析, 大規模調査, 質的研究, 介入研究と多様な研究を行いました. その結果, メタ分析からはスポーツ活動は確かに社会的スキルに影響することが示されました. 4000 名を超える大規模な調査からは, 社会的スキルの獲得には, 運動形態 (運動部, サークル等) の影響は少なく, スポーツ活動の中でどのような経験をするかといった経験内容が大きく影響していることが明らかになりました. 質的研究から, スポーツを通して社会的スキルを獲得した理由が示されました. テニス部, スキー部を対象とした介入研究では, 社会的スキルを高めるプログラムを実施して, その効果が確かめられました. プロジェクト研究で得られたこれら知見の概要と, 今後の課題などについて報告します.

■ ポスター発表 (12:20~14:20)

- ・ 発表者は当日 9:00~9:40 にポスターを掲示してください.
- ・ 演題数にもよりますが, 発表を研究領域毎にいくつかのブロックに分けます.
- ・ ポスターは, 最大 A0 (841 × 1189mm) までのサイズで作成をお願いいたします.
- ・ 演題, 発表者, 共同発表者, 所属を明示してください.
- ・ 所属については以下の通り記載してください.
 - i. 大学生: 学部学科まで記載してください.
 - ii. 大学院生: 専攻まで記載してください.
 - iii. 大学教員: 学部名まで記載してください.
 - iv. i~iii に該当しない方: 会社名や学校名を記載してください.

■ 口頭発表 (12:20~14:20)

- ・ パソコンの OS は Windows10 です. PowerPoint2019 が利用できます. Mac をご利用の場合は, プロジェクターへの入力端子はご自身でご用意ください.
- ・ 発表時間は 20 分 (発表 15 分, 質疑応答 5 分) です.

■ 特別講演 (14:30~15:30)

「感覚・感情・感動」

講師：川上 央 先生 (日本大学芸術学部)

概要：

スポーツも芸術も感覚を使い、感情を制御し、感動をもたらすという点では同じと考えます。特に我々の領域では感覚が重要となり、専門教育の現場では、感覚を研ぎ澄ませることを重点的に指導します。一方、芸術表現には技術も重要ですが、この技術に関しては多くのメソッドがあり、このメソッドに従って技術を高めていきます。しかし、高度な内容の指導になればなるほど、感覚を伴った技術が必要となり、この両者をいかに連動させながら能力を高めていくかが指導のポイントとなります。この講演では、芸術分野、特に身体技術を必要とする音楽を中心に、感覚と技術の連動について解説し、その際に必要となる感情について触れていきます。

感情によって感覚をコントロールし、他者に感動を与える芸術の醍醐味を知っていただければ幸いです。

■ シンポジウム (15:30~17:00)

「感性をどう教えるか」

コーディネーター：北村 勝朗 先生 (日本大学理工学部)

シンポジスト：川上 央 先生 (日本大学芸術学部)

飯田 竜太 先生 (日本大学芸術学部)

松山 立 先生 (日本大学芸術学部)

概要：

スポーツも芸術も一流になるほど、感覚的な訓練や感性の指導が重要になると考えられます。特に芸術分野においては、スポーツ以上にマニュアルや正解がないものであると思われれます。

芸術分野の作品制作過程においては、表現技術はもちろん、感性も非常に重要な要素となります。しかしながら、主観的でとらえどころがないように思われる「感性」を、どのように指導することができるのでしょうか。

本シンポジウムでは、音楽、美術、演劇という異なる分野ではありますが、伝統芸術という共通点をもつ各分野の先生方から、どのように「感性」を指導しているのかについてお話いただきます。

当日参加されている多くの指導者や指導者を志す方々と、多くの意見交換ができれば幸いです。

■ 総会 (17:00~17:30)

■ 懇親会 (17:30~18:30)

会費：3,000円 (学生1,000円) (会費は当日に徴収致します)

以 上